

自己資金検討ワーキンググループ第3回

# 株式会社リバネスの取り組み紹介

2026/01/21

株式会社リバネス  
代表取締役社長CCO 井上 浩

自己紹介

p.03

リバネスの事業について

p.07

リバネスの出版事業について

p.10

超異分野学会の取り組みについて

p.18

# // 自己紹介



The Knowledge Manufacturing Company

# 井上 浩 いのうえ じょう

博士(薬学) / 薬剤師

株式会社リバネス 代表取締役社長 CCO  
(Chief Culture Officer)

熊本大学薬学部 先端薬学教授

慶應義塾大学薬学部 客員教授

北里大学薬学部 客員教授

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 客員教授

経済産業省:産業構造審議会委員

経済産業省:未来の教室とEdTech研究会委員

JST スタートアップエコシステム共創委員

NEDO技術委員

株式会社ヒューマノーム研究所 取締役

株式会社メタジエン 特別顧問

他ベンチャーの顧問多数



  Joe INOUE  @joinoue

研究者であり、アントレプレナーである

# 祖業は先端科学教育 創業以来、25万人以上に「出前実験教室」を提供



コミュニケーションという職業を創る  
サイエンスとテクノロジーを  
わかりやすく伝える

リバネスは「わかりやすく伝える」ことで  
社会の課題を解決する研究者集団



Science Bridge Communication

# リバネスの事業について



The Knowledge Manufacturing Company

# 株式会社リバネスの今

## ■ 2002年設立から24年間、様々な分野の研究者が社会課題を解決しようと集まつた研究者集団

ビジョン

科学技術の発展と地球貢献を実現する

ミッション

地球上で最も効果的な知識製造業を行う企業群になる

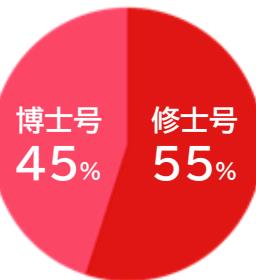
コアコンピタンス

サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える

スローガン

身近なふしきを興味に変える

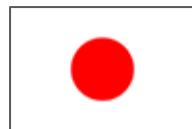
## ■ アカデミアでの研究経験豊富なメンバーで構成



農学 / 生命科学 / 生物学  
機械工学 / 電子工学 / 情報工学  
化学 / 薬学 / 医学 / 心理学 etc.



## ■ 日本国内のみならず、グローバルに展開 | リバネス単体 60名 / リバネスグループ 約300名



日本(東京/大阪)



シンガポール



マレーシア



フィリピン



アメリカ



イギリス

# 人と技術を育て、社会実装まで進める「知識製造業」

## 科学技術が生まれ、社会に実装されるまでの場作り



東南アジア・日本最大級  
中高生学会プラットフォーム



研究者の新たな活躍の場  
を発見する



40歳以下の若手研究者の  
ための研究助成制度



アジア最大級のディープテック  
エコシステムを構築

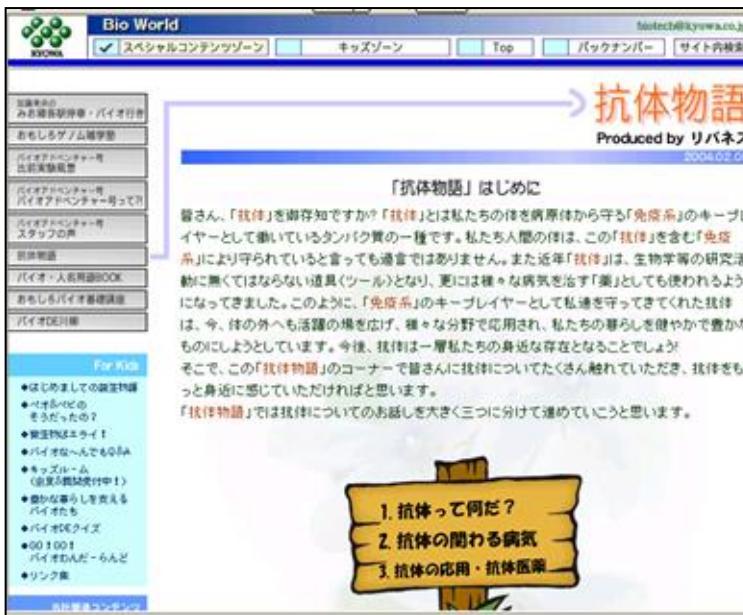
# リバネスの出版事業について

## 2005年、リバネス出版の立ち上げ

2004年2月  
協和発酵ホームページにて  
『抗体物語』連載開始

2005年3月  
絵本出版  
『かずくんはつめい・はっけんシ  
リーズ』(KMS出版)

2005年5月  
リバネス出版設立

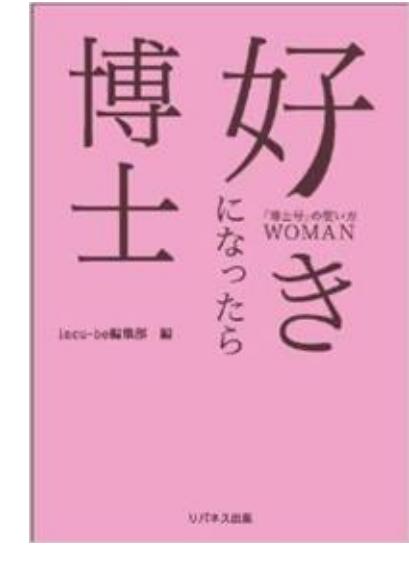
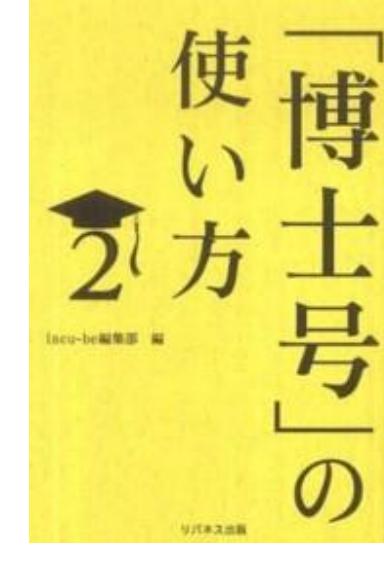
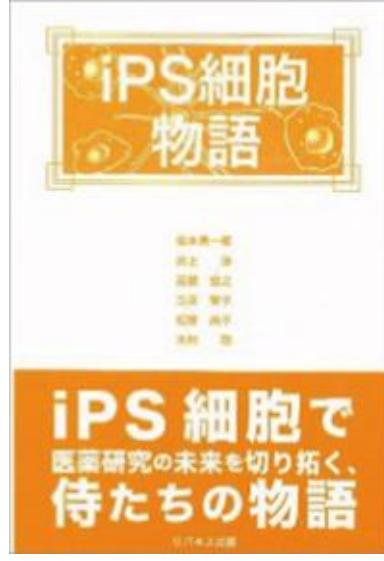
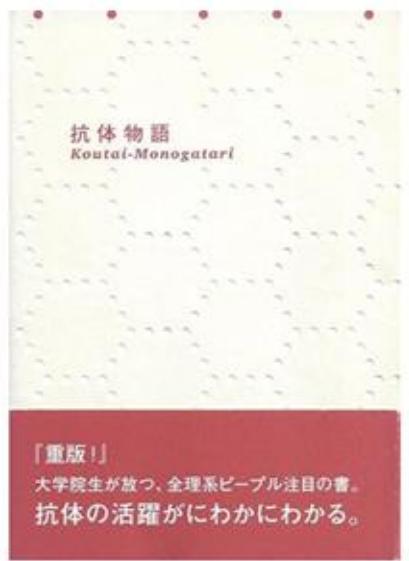


現ロゴ



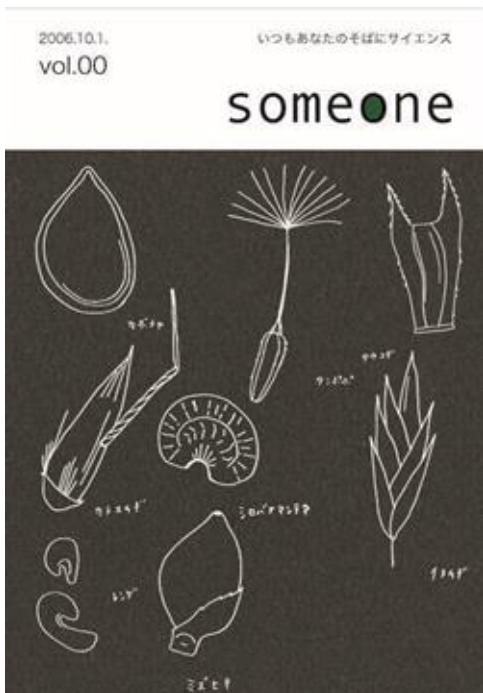
Leave a Nest Publishing

## 様々な書籍を企画制作

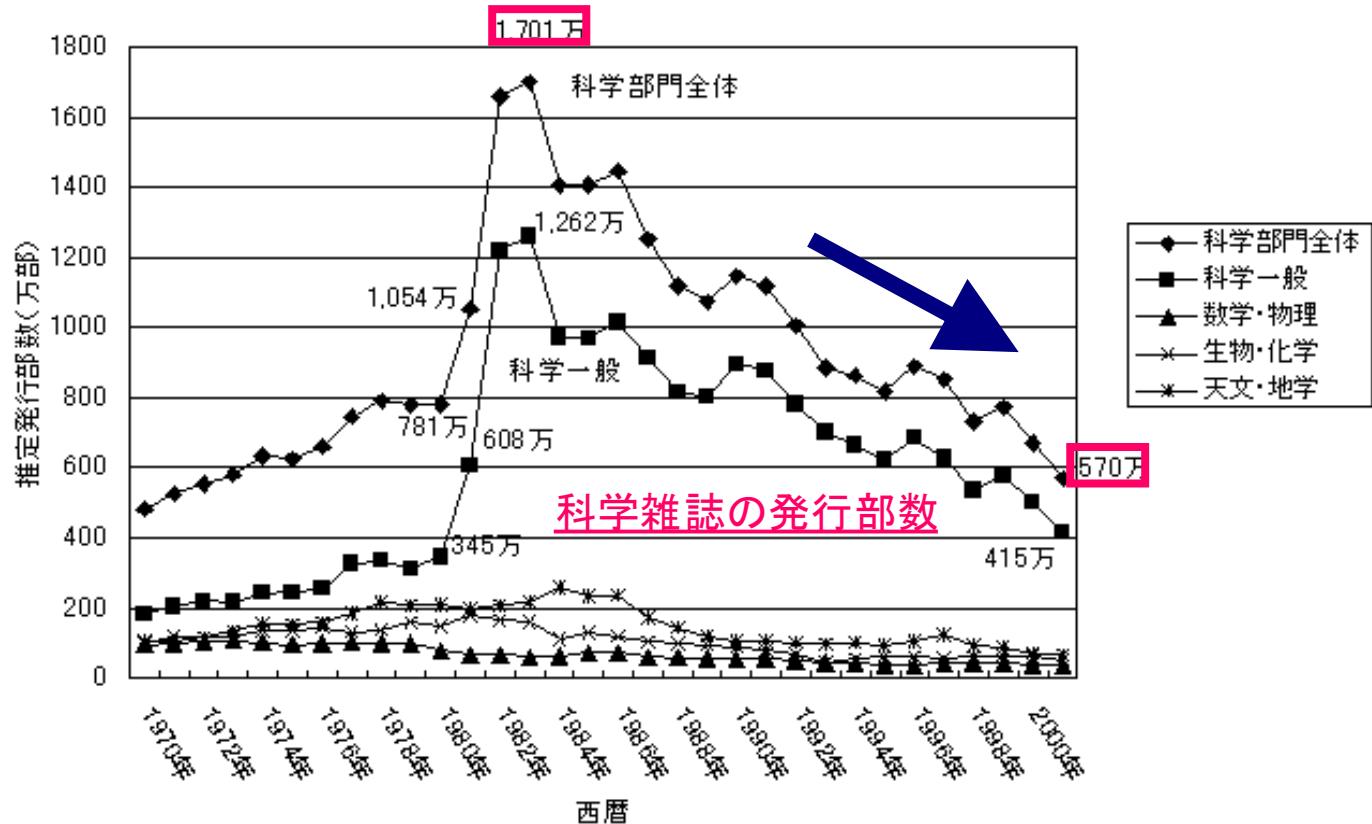


## 定期刊行誌の立ち上げ

### 2006年「someone」創刊 -いつもあなたのそばにサイエンス-



サイエンスがもっと身近に感じられる  
ような高校生向けフリーペーパー



- ◆サイエンスに興味を持つ若者を増やす  
高校生無料・すてきなデザイン・流れのある読み物
- ◆サイエンスを軸とする人材の育成  
研究者・掲載企業のイメージ

# 年4回(3,6,9,12月)、全6誌を定期発刊



## 中高生向け科学雑誌『someone』

発行部数: 6万部

配布先: 全国の中学・高校



## 若手研究者のための研究キャリア発見マガジン『incu・be』

発行部数: 9,800部

配布先: 主に理工系の学部生・院生・ポスドクなど



## 教員向け科学教育情報誌『教育応援』

発行部数: 17,500部

配布先: 全国の中学校・高等学校の理科教員



## 人づくり・組織づくりに挑戦する『人材応援』

発行部数: 1800部

配布先: 全国の企業のマネジメント層



## 科学技術に関する分野統合専門誌『研究応援』

発行部数: 17,000部

配布先: 理・工・医・歯・薬・農学系等の大学教授、准教授、講師、助教および公的研究機関、民間企業の研究所



## 地球貢献型の新しい業を興す『創業応援』

発行部数: 1800部

配布先: 上場企業の社長室、経営企画室等

## 定期刊行誌の持続的成長のための仕掛け

- 記事広告としての活用
  - 各冊子の読者層に向けて、質の高い「学術情報」「研究情報」「共同プロジェクト」などの情報発信を行いたいパートナー企業に対して、記事広告としての活用を提案
- 冊子単体ではなく、事業全体での設計
  - リバネスが主催する各種プロジェクトや研究費などの情報を掲載することで、冊子単体でのマネタイズではなく、リバネスの活動の総体として事業が成立する形を構築
  - 冊子の取材を「ドアノック」ツールとして位置付け、冊子起点でのプラットフォーム拡大の流れも構築

## 冊子を通じて知識プラットフォームの拡大にも寄与

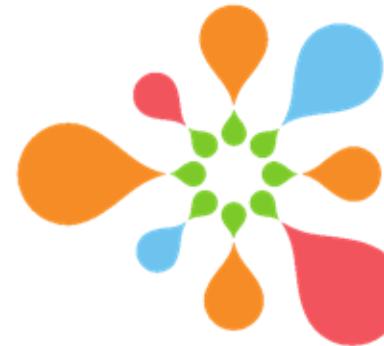


## 『学術の動向』への思い

- 学術会議が掲げる理念「我が国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与すること」は、リバネスの理念「科学技術の発展と地球貢献を実現する」に通ずる。
- 学術の動向の復刊はまさにサイエンスブリッジコミュニケーションとしての強みが活かせる。
- 学術とブリッジコミュニケーションの掛け合わせにより、日本のアカデミアをさらに活性化し、次世代研究者の育成や科学技術の社会実装をさらに加速することができる。
- 國際的なアカデミアネットワークを持つため、学術の動向を通じて日本から世界に向けた発信を行い、日本を知識製造業の拠点として確立したい。

# // 超異分野学会の取り組みについて

# 超異分野学会



## Hyper Interdisciplinary Conference

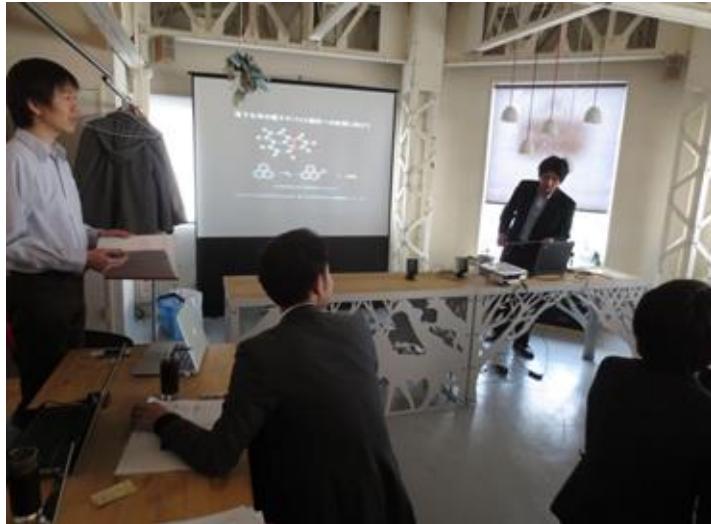
超える。つながる。世界を変える。

研究者、大企業、町工場、ベンチャーといった分野や業種の違いにとらわれずに、  
議論を通じて互いの持っている知識や技術を融合させ、  
人類が向き合うべき新たな研究テーマや課題を捉え、共に研究を推進するための場です。

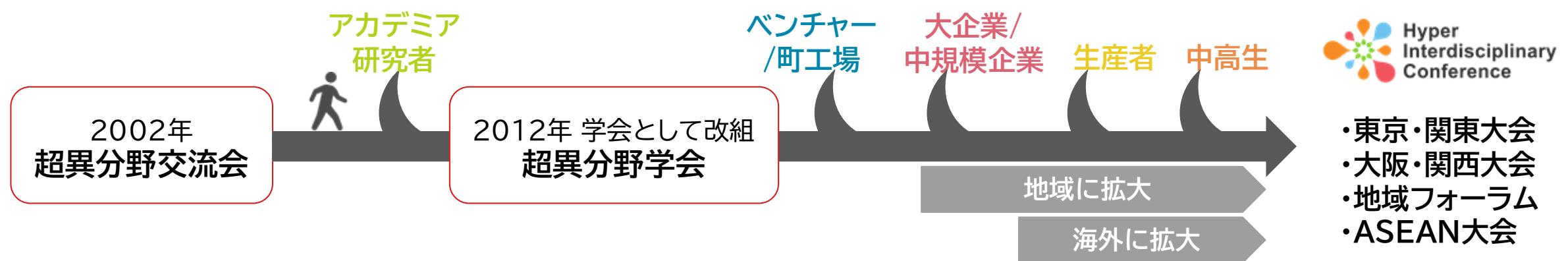
異分野・異業種の参加者により、これまでにない研究テーマの創出、  
課題解決のアプローチを建設的に議論し、  
垣根を超えて共に最先端の研究開発を仕掛け続けます。

# 超異分野学会の歴史 2002~

小さなカフェで始まった『超異分野交流会』



参加者の拡大、『超異分野学会』へと進化



# 東京大会には1000名を超えて、アカデミア、ベンチャー、大企業、町工場、生産法人、自治体、中学・高校生が参加

3/7 [FRI] - 8 [SAT]  
@ベルサール新宿グランド

## 超異分野学会 東京大会2025



# 日本全国、グローバルでも続々開催



超異分野学会・豊橋フォーラム2025

- ・ 愛知フォーラム2026／1月15日
- ・ 東京2026／3月6～7日
- ・ 大阪2026／9月5日



HIC Singapore2025

- ・ Vietnam2026／1月24日
- ・ Thailand2026／1月31日
- ・ Indonesia2026／2月7日
- ・ Taiwan2026／4月24日
- ・ Phillipines2026／11月14日

## 超異分野学会の持続的成長のための仕掛け

- 「セッションパートナー」としての協賛
  - 超異分野学会に集う「分野を超えた多種多様な研究者」に向けて、自社の取り組みや新しいプロジェクトを発信したい企業等を対象に「セッションパートナー」の枠を提供
- 地域フォーラムは自治体と連携
  - 地域フォーラムは「当該エリアでの研究活動を盛り上げることによる地域活性化」を目的として、自治体との密接な連携のもと開催
  - 地元企業をこの場に巻き込むことで、従来とは異なる形での産学連携が生まれる機会としても活用

## 日本学術会議との連携で生まれる可能性

- 日本学術会議とりバネスの「共催」
  - リバネスがこれまでに構築してきたプラットフォームに対して、日本のアカデミアを代表する機関である日本学術会議と連携することで、質の高い学術情報を効果的に発信することが可能。
- 新たな産学連携プラットフォームの誕生
  - 「超異分野」かつ「オープン」かつ「グローバル」な場であるリバネスのプラットフォームと、日本学術会議のネットワークを掛け合わせることによって、世界規模での新たな産学連携プラットフォームを構築することが可能。

さあ  
研究だ!!

Powered by **Leave a Nest**

